七夕のお話（中）

みなさん、こんにちは。今日は「七夕」のお話です。

七夕は、７月７日の夜に、天の川に隔てられた「彦星」と「織姫」が、１年に１度だけ会うことができるという伝説にちなんだ行事です。

七夕には、笹の葉に、願い事を書いた短冊を飾り付けます。これは、まじめで働き者の青年「彦星」と、織物の上手な「織姫」にあやかり、習い事の上達や、将来の夢をお願いしたり、「彦星」と「織姫」のような「よい出会いがありますように」と願いを込めて、短冊を書きます。

今日は、七夕をイメージした「七夕汁」と「七夕ゼリー」です。「七夕汁」には、星の形をしたかまぼこや、月に見立てたうずら卵が入っています。また、春日井市産のサボテンを練り込んだサボテンきしめんを天の川に見立てました。七夕の夜空に、お月さまやお星さまがキラキラしているようですね。デザートの「七夕ゼリー」は、星型のカップに入った３色のゼリーです。

「彦星」と「織姫」の願いと、みなさんの願いがかないますように。